

九建架線工事新社屋

設計 アラタデザイン
施工 九電工ホーム
ナカケン 九電工

所在地 福岡県大野城市
KYUKENKASEN BUILDING
architects: ARATA-DESIGN

KYUKEN KASEN





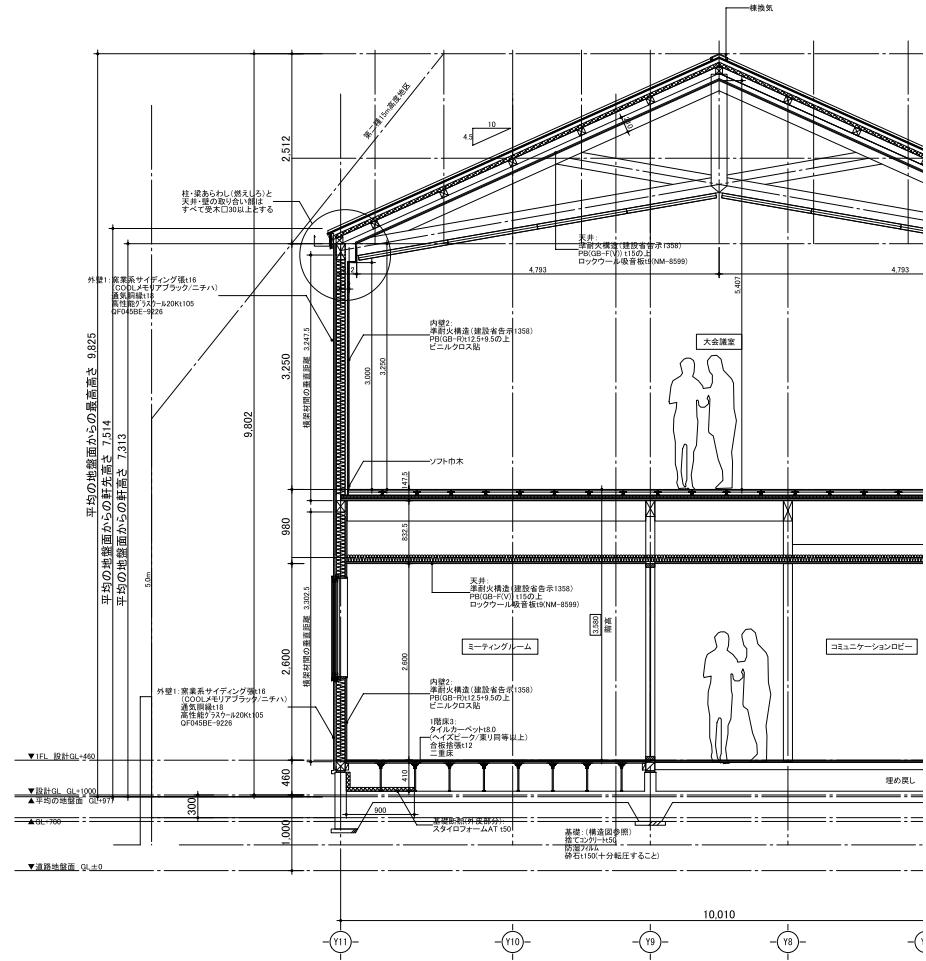
大会議室のシザーズトラス。会社のシンボルである送電塔のイメージを木造のトラスで表現した。



シザーズトラスは接合金物を用いた。準耐火建築のため梁は燃えしろ設計によりあらわしとした。



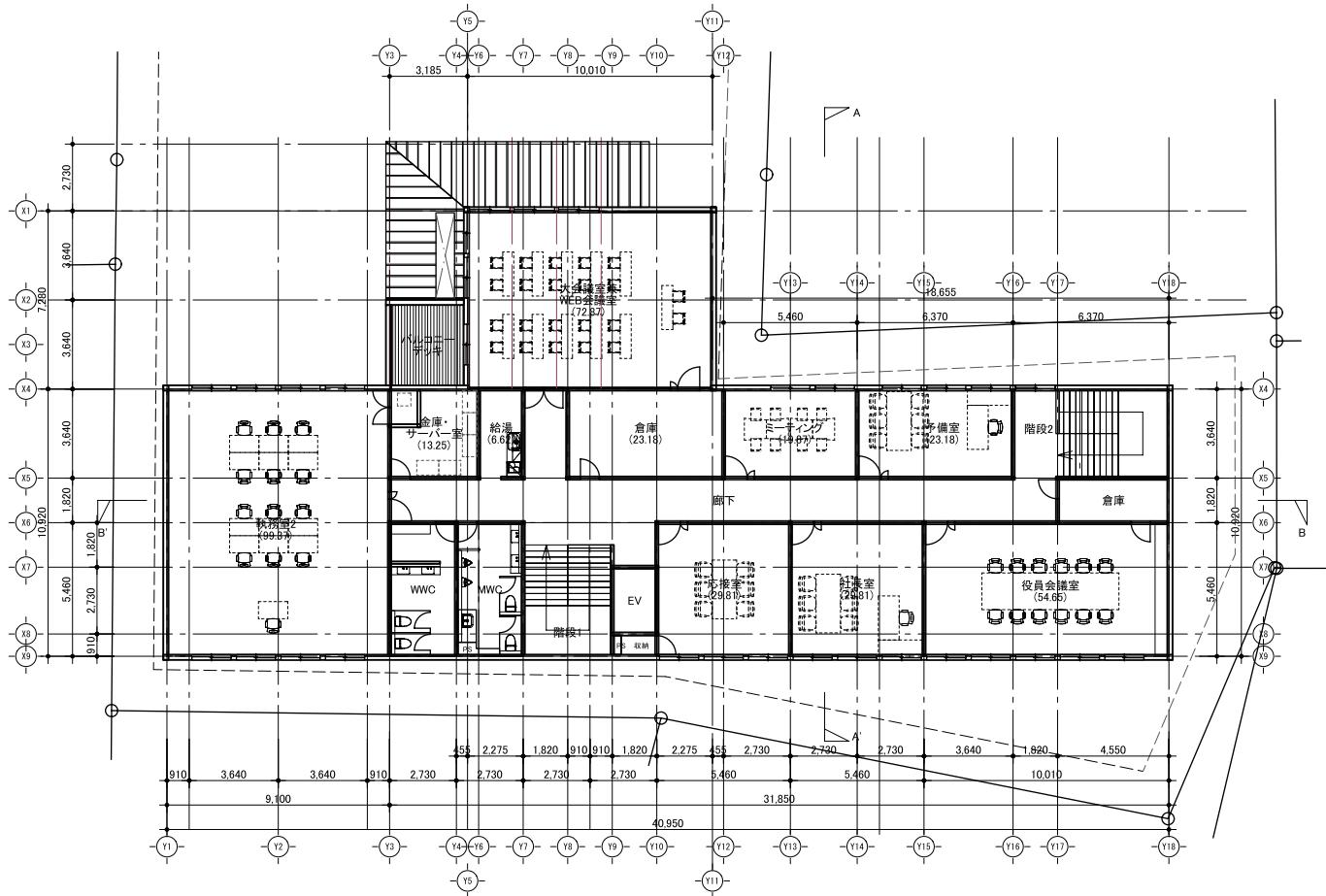
製作による接合金物



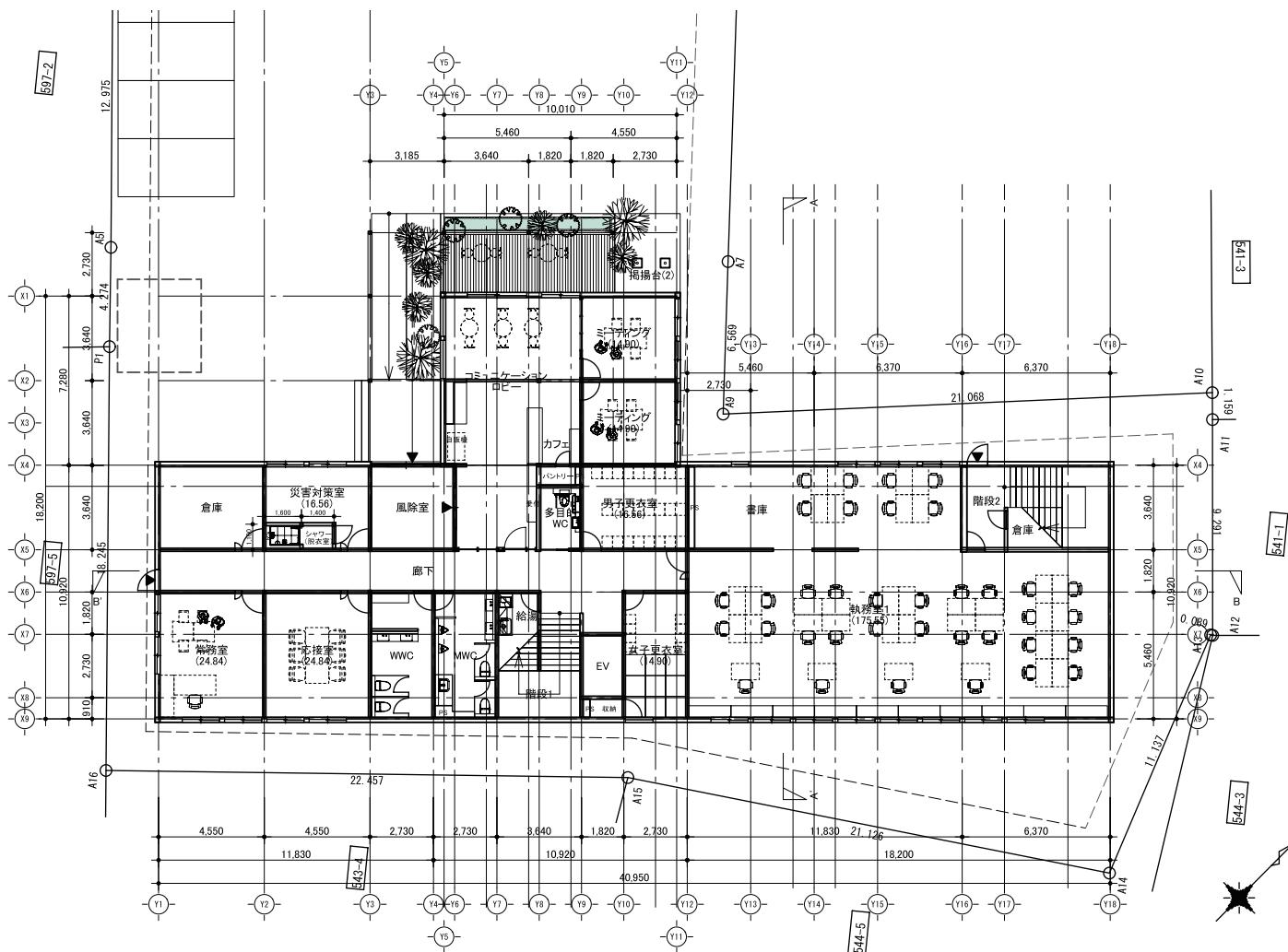
メインエントランス。深い軒天はレッドシダー。塗り壁や杉型枠のコンクリート塀など様々な素材で毎日の通勤を多彩に演出する。



メインエントランス入ってすぐのエントランスロビー。執務空間と明確に分け、ロビーから直接ミーティングルームに入ることができる。デッキと一体的なレセプションも可能。



2階平面 縮尺 1/300



1 階平面 縮尺 1/300



準耐火構造の木階段を上ると、ハイサイドライト
から柔らかな自然光が廊下を照らす。



ハイサイドライトを廊下に複数箇所設け、木ルーバーを経て廊下に降り注ぐ。



多機能なコミュニケーションロビー



ロビーから直接利用できるミーティングルーム

木造建築という社会課題へのメッセージ

送電のための鉄塔建設や架線を行う本社ビル。木造社屋で森林資源の循環利用を図り、地球温暖化防止や脱炭素社会の実現に寄与したい施主の思いから、木造と企業イメージをどのように表現していくかをテーマに設計を行った。大屋根の必要な大会議室をトラス構造とし、送電塔のイメージと重ねることで企業のシンボルとした。計画上準耐火建築となるため、トラスの屋根でありながら極力部材を少なくし、燃えしろ設計により木のあらわしとする架構方法が課題であった。構造設計を担当したきいぶらん山下氏の提案により、高さを抑え空間をダイナミックに演出できるシザーズトラスを採用し、準耐火建築という制約の中で企業イメージと木造の融合が可能となった。建設コストや日常の執務状況を踏まえ、燃えしろを使って木の構造を見せる部分を限定し、効果的かつ経済的に木を演出した。

日常の中にちょっとした居心地をつくる

来客のある受付ロビーをコミュニケーションロビーと名付け、来客の待ち時間やミーティングをゆったりと過ごせるゆとりのある場所にしつらえた。普段は従業員の昼食スペースにもなり、夕方になると顧客とレセプションやパーティを行える多機能な空間とした。

設計監理 アラタデザイン一級建築士事務所 荒田寛

構造設計 きいぶらん 山下智

施工 九電工ホーム

建築工事 ナカケン

設備設計・工事 九電工

敷地面積 2,477.78 m²

建築面積 621.04 m² (事務所+別棟カーポート)

延床面積 1,045.40 m² (事務所のみ)

階数 地上 2 階

構造 木造

BEI 0.75

工期 2024年4月～2024年12月

撮影 針金建築写真事務所 針金洋介